

# 三宮センター街の構成

三宮センター街は昭和二十一年秋に誕生した戦後の新興ショッピングセンターである。

「流行を創る街」として、常に時代の先端を行こうと、会員は一丸となって街づくりに励んできた。

三宮センター街商店連合会の構成は、加納町五丁目の一部を東入口として、三宮町一、二、三丁目を東西に貫く全長五四三メートル、その両側に並ぶ二二八店の小売商店によって成り立っている三丁連合の商店街で、各丁の組合員と店舗数、長さは左記の通りである。

- 一丁目 九〇名 九二店 二六五メートル
- 二丁目 六一名 六一店 一五三メートル
- 三丁目 七五名 七五店 一二五メートル

一丁目は昭和四十六年四月に、二丁目は四十八年二月に三宮センター街振興組合を結成した。三丁目は元「柳筋商店街」と称していたが、四十四年四月アーケード完成を契機に三宮センター街三丁目として加盟し、昭和五十年四月振興組合を結成。

神戸市は昭和四十一年三宮の近代化をめざして「三宮市街地改造事業」をスタートさせ、山側を市が担当、南側は「防災建築街区造成事業」として権利者がそれぞれビル化し現在に至っている。

